

# 本部秋季例会

## 秋季例会

昭和六十三年十月十三日(木)  
爽快な秋空の下、懸案の瀬戸大橋に行つて参りました。

新神戸より新幹線で岡山へ、ここでバスに乗り児島へ約一時間、児島港より貸切遊覧船に乗船、先づ下津井瀬戸大橋、次いで白鳥が羽を拡げたような美麗そのものの櫃石島橋、岩黒島橋と船はそれぞれの橋の下を蛇航し、与島橋をくぐつて、与島の棧橋に着く、ここで改めて渡つて来た島々、銀色に映える巨大な橋と瀬戸内の遠景を眺めた後、予約しておいた海幸苑にて会席料理に舌つづみを打つ、再び船に乗り残りの南北備讃瀬戸大橋。仰望を楽しみつつ四国番の州工業地帯の一隅にある坂出の港に着く。

ここで、再びバスで太陽鋳工(株)の関係会社の泰和株式会社坂出工場(重油脱硫觸媒より架橋用鋼材等に使われる鉄鋼添加剤のバナジウム抽出をしている)を見学し

# 辰巳会本部秋季例会

昭和六十三年十月十三日 順不同

阿部 孫治 鈴木 治雄	浅田 文子 須藤 欽吾	安東 浄郎 武井 一郎	小倉 五郎 高畑 薫幸	奥田 房子 高畑 喜代子	楓 雅之 堀内 喜代子	河野 文夫 松原 重男	鍵田 文夫 松原 重男	金子 貞子 南前 義夫	金子 貞子 南前 義夫	木下 清三郎 河野 芳子	源 島 横田 周作	小林 俊夫 横田 周作	佐野 寿夫 横田 周作	古田 寿夫 横田 周作
以上二十八名														

た後、各人に坂出銘菓の「かまど」を頂き、須藤社長、早川工場長に御礼を述べて今度は橋上自動車道より鷺羽山目指し復路につく。船で海上より見上げるのと違い、稱スピードを落してくる運転手さんの心使いを感じ乍ら車窓より俯瞰する箱庭の如き風景正に再現に値する絶景でしょう。

## 三作ひとり狼であった。

歌舞伎については全く見る目がないので余り多くを語ることは出来ないが、『盛綱陳屋』は最近売出しの若者に人気のある孝夫の盛綱がよく、又小四郎の子役が可憐で終場で父高綱を思つて切腹する所では思わず涙が出てしまった。

盛綱の子小三郎の可愛らしい(四才位)武者姿と所作には観客から思わず、感嘆のため息がもれる。

一幕目が終つて昼食、予め準備しておいた二階の特別食堂、「花道」でとつたが、何しろ幕合の間が三十分、満席の状態なので植田支部長のご挨拶もしてもらえず、皆様に失礼してしまつた。日商岩井から頂戴したデビット・クッキーを大急ぎで皆様に配る。

午後は梅幸の「安倍保名」と雀右衛門の「鷺娘」の踊りで始まる。私には鷺娘がよかった。恋に悩む娘の心を、白鷺の精に托して白無垢、綿帽子で踊り、「引抜き」で友禪衣裳の町娘に一変、最後は「ぶつ返り」で再び鷺の姿になり、五度位衣裳が変わつた。その度に観

## 辰巳会東京支部秋季例会

昭和六十三年十月十八日 順不同

荒木 従 縄 鈴木 一 誠	芦原 有一 鈴木 久子	安東 幸田 辺 満寿子	岩切 美子 立花 満寿子	植田 三男 同 夫 人	請川 夫人 建部 清也	大前 智恵子 柘山 寿郎	河野 のぶ子 中島 梅子	加藤 福雄 西川 明子	坂本 福寿 安東 明子	嶋内 桃枝 中島 英吉
以上二十八名										

客のホーツという溜息が洩れる。衣裳を替へに楽屋に引込んだ間の長唄お囃子も十分聞き応えがあつた。

最後の「ひとり狼」は、旅の博徒の子に生れた男が、郷土に拾われて育ち、娘と恋愛して子まで設けるが、いっしょになることが出来ない。恋の痛手のため心ならずも、やはり博徒の中に身を投じ、自分の境涯をあさしく思いなが

見とれているうちに合計約十軒の橋を渡り終え程なく鷺羽へ到着。展望台へと歩く。児島半島の最先端、瀬戸内海国立公園を一望するに絶好の位置、数々見て来た今日の素晴らしい眺望等の仕上げとして、今度何時の日かと惜しみ乍ら頭のフィルムにもしつかりと写し帰途につく。

## 東京支部秋季例会

十月十八日秋の例会は歌舞伎座百年大歌舞伎鑑賞を催した。毎度バス旅行で旨いものを食して帰るといふパターンであったが、偶には芝居見物でもということになり、「芸術祭十月大歌舞伎」を鑑賞することにした。

予め上席をまとめて三十席予約しておいたが、劇場側の手落ちで席が確保されてなく、切符をとりに行った時、慌てて準備したので、席が一、二階に分れ分散してしまつた。劇場側は詫びていたが、幹事としても参加者の皆様に紙面を借りて深くお詫び申し上げます。

## 四国支部例会に参加して

十一月十九日、二十日と二年振りに行なわれた四国支部の例会に参加しました。

会員故傍士熊喜氏の未亡人雪子さんの経営される高知市上町の美門旅館へ午後二時に集まられたのは次の方々でした。

- 支部長 竹崎 浅吉
- 小松 彰男
- 中屋伝七郎
- 傍士 雪子
- 間室 太郎
- 松木三四郎(翌日のみ)
- 南前 義夫

そのようなわけで、席の振り分けは幹事の方で決めさせてもらいました。

当初予算の関係でせいぜい二等席かと考えていましたが、ご年輩が多いのでそれでは見にくいからということで、日商岩井植田さん、日本発条坂本さんの特別のご配慮で協賛金を戴き、一等席が手配できました。

出しものは、「盛綱陳屋」、踊り「保名」鷺娘、世話もので村上元



## 金子 裕

暫らくお互いに昔話、近況報告、支部長の九十四才に至る長寿法等話に花が咲く。

三時頃、竹崎支部長より金子家の墓参の提案あり、一同揃つて(小松氏は術後の為大事をとり待機)筆山の墓地へタクシーで、浦戸湾の眺望できる小高い丘にある金子家御一族の墓へ傍士さんの心遣いによる、お花、お酒、お菓子を供えお参りする。

旅館へ帰るとテーブルに豪華な本場の皿針料理がお迎えた。直径約四十cmはあろうかと思われる大皿が三皿、組物、鰹のたたき、鯛の刺身等とお寿司と目を見はる。

支部長の発声で乾盃、アルコールの濃度が増してくるに従い、先程のいろいろな話がトーンアップ、再び九十四才の健康談議が座を制し、一同聞き入るのみ、次第にお皿の上が淋しくなる。逆にお腹の中はさぞかし賑やかなことだろう。小松さんは胃の容量が小さくなつたので、食べられないとか、御気毒だが遠慮はしない。

松山から御参加の間室さんの御

帰りの時間が近づいて来た、後は高知の方がかりだが、このあたりでお開きと、外はとつぷりと日は暮れていた。翌朝、松木さんが旅館に御見えになる。昨日の中屋さんのお話し通りゴルフ焼けた非常にお元氣なお顔に接する。御挨拶もそこそこに早速タクシーで、九十四才の大先輩、傍士さんの先達で五台山、桂浜、高知城、日曜市と御案内頂く、特に高知城内に於ては、城独特のあの急階段を昇り降りされる御脚には驚きの一語だ。

まだく書きたいことがありますが、この辺で擱きます。

支部長始め会員の皆様、楽しい二日を過ぎせ頂ぎげに(ほんとうに)有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。

又、御会い出来ることを楽しみにしております。(南前 義夫)

### 四国支部親睦会だより

昭和六十三年十一月十九日(土)、二十日(日)の両日、高知市の美門旅館に於て四国支部の親睦会を開き

ました。御多忙中、本部から御出席下さった南前義夫様と金子裕様は瀬戸大橋経由で高知駅まで四時間位で来られました。

午後三時頃から全員車で金子直吉重役の御墓に行き、在りし日の面影を思い浮かべ乍ら御冥福を御祈り致しました。墓地には次のような建札が建っています。

金子直吉の墓

神戸鈴木商店の大番頭で神戸の一商店を三井三菱と並ぶ大商社に仕立て上げたが第一次大戦後崩壊した。然し今尚彼



の息の掛った帝国人絹神戸製鋼日本發条日商岩井等多くの会社が存続している。

高知南口タリクラブ  
土佐史談会

宿に帰ってから酒盛りを始めましたが話に花が咲いて夜の更けるのに気づかぬ有様でした。

さてこの度の会に出席したのは中屋傳太郎氏、松木三四郎氏、傍士雪子さん(美門旅館経営)、小松彰男氏、間室太郎氏、竹崎浅吉の六名で、丁度病氣などのため欠席せられたのは、小松豊秀氏、久保辰生氏、武内雪恵さん、竹崎鶴太郎氏、川沢美秋さんたちでありました。

小松彰男氏は神戸で鈴木薄荷会社に長らく勤めた後昨年高知へ帰られ、又間室太郎氏は松山市からはるばる出席せられ多忙のため夜おそく帰られました。間室氏の父上はロンドン支店に勤めた後帝人へかわられました。鈴木商店には四国出身者が沢山居たけれど退職後は郷里へ帰らずに県外にて暮らして居る人が多いために支部の会員は少ないことになって居り誠

に残念です。第二日は本部のお客車を車で傍士雪子さんと竹崎浅吉とが案内することとなり、朝宿を出て、先づ南前さんが四十数年前の戦時中居られた高知市浦戸に有った海軍の航空隊をたづねたところ建物の跡に記念碑が立っていました。命令が出たなら直ちに戦場に行かねばならなかった当時のことをふり返って感慨無量であられたことと思われました。それから坂本龍馬の銅像があり月の名所でもある桂浜を訪れた後、高知城の天守閣にのぼり日曜市場を見物しました。この市場は高知城の下から一キロにわたって道路の中央に日曜品を売る店がならび毎日曜日に行なわれ三百年程前からのもので高知の名物の一つでもあります。

それから昼食後午後三時半高知駅発の汽車で瀬戸大橋岡山経由で神戸へ帰られました。誠に有難うございました。

(竹崎浅吉記)

### 辰巳会員便り

鷺尾 英一

拝啓 貴会益々御清栄の趣慶賀に堪えません。会報「辰巳」いつも楽しく拝見致して居ります。今回私左記に転居致しましたので御一報申し上げます。 敬具

〒040 函館市末広町二〇番六号

函館山パレス二二〇号

TEL(〇一三八)二一七七一五

越智 栄

暑中御見舞申し上げます。昨日「たつみ」第四十九号を有難く拝受致しました。

しおぐとした思いでくまなく拝見いたしおなつかしく存じました。皆様御高令御健康で何よりとおよろこび申し上げます。

なお永く「たつみ」と共に競いあいて御健やかにあられますよう祈り上げ幹事の方々の御労苦を併せて感謝申し上げます。酷暑の折柄何卒お大切に遊ばして下さいませ。

いませ。

かしこ

鈴木佐賀子

本夏は誠にお珍らしいお涼しい陽気で七月も終わろうと致し凌ぎ易くて結構ではございましたがいよく真夏に向います折柄誠に案じられる陽気でございます。

只今はいつも乍ら「たつみ四十九号」を御贈り頂きまして誠に有難く頂戴させて頂き楽しみに拝読させて頂きます。

向暑の折何卒皆様御健康に御留意遊ばされ、ますます御健康に御過しの程、御祈り申し上げます。 七月十八日

傍士 雪子

おてがみをありがたく存じました。

先日は、遠路を御来高頂きまして、何かと御厚配を賜わりまして、お蔭様で辰巳会を楽しく終了ができました事を厚くお礼を申し上げます。翌日は、お見送りの失礼させて頂きまして申し訳なく存じま

す。人一倍とお元氣な竹崎様に、最後までお交り下さいましてありがとうございました。さぞかしお若い貴方様もお気づかれの事と推察いたしました。当地も皆様高令の方々で大した活気もございませんでしたが、お若い貴方様方の御出席でほんとうによろしゅうございました。又御来高の機をおまちして居ります。

木下清三郎

前略 瀬戸大橋旅行は大変お世話になりました。秋晴れを満喫させて頂き、有効な御企画にて稀しいものを沢山見せて頂き感謝申し上げます。泰和の社長さんにも別途お礼状出して置きましたが、御土産迄戴いたし恐縮いたして居ります。本日所用他出の為御礼が遅くなり申し訳ありません。皆様へ宜敷く御風聲願ひ申し上げます。 草々

桂 芳男

立冬の候と相成りましたが、ま

岡 新次

転居お知らせ 私こと この度左記に転居いたしました。

従つて今後の御連絡ご通知を左記にいたされたたくお願い申し上げます。 〒168 東京都杉並区久我山

三丁目三九一二七 電話(〇三三)二四七〇五〇五〇五六

武内 雪恵

暑中御見舞申し上げます。いつも御無礼のみで申し訳け御座いませぬ。また辰巳四十九号私にお送り頂き有難う存じます。

まだお暑う御座いますのでどうか御身体お大切になさって下さいませ。